

「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」についてのFAQ

Q1：令和6年度に新設された「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」小学校交流部門とは何ですか？

京都府内の公立小学校（京都市立を除く。）第5学年を対象に行う、学校間の探究的な学習の交流会です。

総合的な学習の時間において各学校が設定している「探究課題」や、各教科等における探究的な学びの成果や課題について、学習過程も含めて、児童が自分の言葉で伝えあい、交流するというものです。また、質疑応答のみの参加も可能です。

小学校交流部門の目的は、総合的な学習の時間や各教科の学習において探究的に学んだ学習内容を、学校間で交流することによって、認知能力と非認知能力を一体的に育むことです。

国語科等で育成してきた指導事項を発揮させながら、他校の児童への発表や質問を相互にすることで、学習内容をより深く理解することを目指しています。また、この経験を通して、自己の成長や他者との関わり方を見つめ直し、自己有用感や学ぶ楽しさ、学ぶ意義を実感し、主体的に学ぶ人材の育成を目指しています。

Q2：「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」中学校コンテスト部門とは何ですか？

京都府内の公立中学校（京都市立を除く。）を対象（学年は問わない）に行う、課題解決型の学習のコンテストです。各学校が設定している「探究課題」について探究的に学ぶ学習過程の中で課題を設定し、4名程度のチームで課題解決を実行、または課題解決案を提言するというものです。

課題解決のための「問い」の設定が難しい場合や、連携先が見つからない場合は、（別紙1）「支援企業一覧」を参考にすることができます。京都府内に地盤のある複数の企業等から「正解のない問い」を出題いただいているので、選択していただくことも可能です。なお、企業等から支援を受けたい場合は、条件や上限を確認する必要があります。

参加する学校は総合的な学習の時間等を活用し、課題の解決を行い学校毎に代表1チームを決めてコンテストに応募していただきます。

この中学校コンテスト部門の目的は、それまで教科等で学んだ力を活用して、チームで探究を進め、企業等が抱えている「問い」や、探究的な学習過程の中で設定した課題に取り組むことによって、認知能力と非認知能力を一体的に育むことです。また、その経験を通して自己有用感を感じ、学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感し主体的に学び社会に出ても学び続ける人材の育成を目指しています。

Q3：参加の条件等がありますか？

このコンテストに参加するには、総合的な学習の時間を核として、応募する学年全員で取り組んでいただく必要があります。取り組む時間数は、学校の実情に合わせて調整していただいてもかまいません。

また、特別支援学級の児童生徒についても参加することができます。学級の実情に合わせて参加を決定していただいてもかまいません。

Q4：小学校交流部門での留意点がありますか？

児童が、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、そこにある具体的な問題について情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組んでください。そして、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していくことが大切です。

Q5：中学校コンテスト部門での留意点はありますか？

1次審査の応募は学校毎に1作までの応募となりますが、全ての生徒の認知能力と非認知能力の双方を育成する必要がありますので、一部の生徒のみの取組にならないようにすることが必要です。

普段の授業等で活動している4名程度のチーム等により、課題解決型の学習を行うことを通して、全ての生徒が取り組めるものにして下さい。また、校内選考にあたっては、教員のみが選ぶのではなく、ポスターセッションやプレゼンテーションなど生徒参加型での選考を行ってください。課題解決型の学習に限らず、どのような結論を出したのか、それをどのように伝えるのか、というアウトプットまでを意識した学習が生徒の将来に繋がるものと考えます。

Q6：課題解決型の学習に取り組んだ経験がないのですが？

コンテストの趣旨を理解いただき、取り組む意欲がある学校であれば是非応募ください。府教育委員会においてコンテストの位置付けや課題解決型の学習についての事前説明会も行います。また、ホームページにこれまでの事例を掲載しているので参考にしてください。